

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	初石駅施設整備事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O1	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	都市計画課				
施策	1-8	利便性と快適性を重視した公共交通機関の整備充実	主管課長	長橋 祐之				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	初石駅利用者等	意図	初石駅利用者の利便性の向上を図る。
事業内容	東武野田線初石駅の現状に即した東口整備形態の協議を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	T Xの開業後、初石駅は利用者数が減少傾向にある。また駅舎の橋上化や、それに伴う駅前広場整備、道路整備などを行った場合は高額な費用を要する。なお、平成20年度に跨線橋のエレベーター及び駅出入口にスロープが整備されている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
		①	便利だと感じている駅利用者の割合	66	65.90	68.90	%	↑↑↑
②	1日平均乗降人員	18,019	18,527	18,741	人	↑↑↑	東武鉄道ホームページ	
③								
④								
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・初石駅利用者は、減少傾向であったが、平成23年度からほぼ横ばいに推移している。 ・平成17年2月に初石駅東口用地として、駅東側の土地を購入している。 ・平成30年度は、地平駅の簡易的な東口改札を改め、既存の跨線橋を利用した橋上駅舎化及び自由通路を令和5年度の供用開始に向けて整備することとして、東武鉄道との協議や周辺住民との意見交換を行った。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		4,668,200	2,013,600	4,614,400				
事業費(b)(円)								
うち一般財源								
職員給与と費(c)(円)		4,668,200	2,013,600	4,614,400				
人役・職員(人)		0.68	0.30	0.70				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	D 国・県・広域自治体で担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	駅近隣地域住民及び商店会との意見交換会を開催する。	③取組における課題(Check)	東口開設の方向性について、地域住民の意見集約を図る必要がある。東口開設と合わせた交通規制について検討する必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	駅近隣地域住民及び商店会との意見交換会を開催した。	④課題に対する今後(H31～)の改善計画(Action)	基本調査業務において橋上駅舎・自由通路・東口広場の整備計画について検討を行い、地域住民等との合意形成を図る。